

徹底的な多面的連携

多胡秀人

2021/12/4

12月2日、群馬銀行と第四北越銀行が地域経済の活性化、店舗の共同利用やグループ会社機能の相互活用などで協力する業務提携を発表しました。

11月12日には静岡中央銀行と神奈川銀行が金融仲介分野に関する包括業務提携契約を締結しました。取引先企業のビジネスマッチング、事業承継などで連携することです。

このような地域銀行の業務提携の動きが加速しています。ワタシは資本に懸念がない限り、資本統合を伴わない業務提携を多面的にどんどん進めていくべきと思っています。

そして、このような業務提携は銀行同士ばかりとは限りません。

「中小小規模事業者」の経営支援であれば、傑出した能力を持っている信用保証協会があり(まだまだ少数派ですが)、彼らと経営支援の業務提携を結べば良いのです。

「中堅中小企業」の経営改善・事業再生の支援であれば、全職員運動でそれを組織的に進めている商工中金が候補先になると思います。商工中金の資本金劣後ローンは単に資金を出すにとどまらず、経営改善・事業再生の「支援」が大前提です。商工中金には短期資金の機能もあるので、タッグを組んで途上与信管理・伴走支援を行うことが可能です。

さらに、筑波銀行がSBIとの連携によりスターアップ企業育成のためのエクイティ投資を実行したように、他業態との連携強化で顧客の高度なニーズに応えることができるのです。

徹底的な多面的連携です。

ただ、連携といっても、工一ル交換や、提携先への丸投げは無意味、自らが本気度と当事者意識を持つことが必須条件であることは言うまでもありません。

包括業務提携の成功事例は千葉銀行と武蔵野銀行のアライアンス(CMA)ですが、その一方で忘れ去られた業務提携も少なからずあります。当該業務提携のこの1年余りのプレスリリースをチェックしてみたのですが、驚くことにまったく音無し。花火を打ち上げてそれでオシマイ。「当局へのアライバイづくり？」と揶揄する声も聞こえてきます。PDCAのPで止まっており、CMAのような本気度が感じられません。もったいない話です。

この期に及んでもすくんでいるだけの小規模地域銀行はさすがに数少なくなりました。こういう銀行には、すべての分野で「徹底的な多面的連携」というアドバイスはありません。

～「『資本統合』をしない業務提携は、地域金融機関の本分である地元顧客のことを考えればベストな選択」。地銀経営に詳しく、金融庁の有識者会議にも加わる多胡秀人氏も評価する1人だ。発表直後まとめたリポートでは「経営統合や合併をうたっている地銀グループが掲げている施策は、業務提携と共同化ですべてできる」と断じた。(日経ヴェリタス、2016年4月3日号より)

(了)

※※※※本稿の無断転載、お断りします※※※※※